

東日本大震災 ピースボート災害ボランティア 関連情報

2011年10月12日

## ボランティアが、仮設住宅へオリジナル新聞を配達！ ピースボートで、「週刊 仮設きずな新聞」プロジェクトを開始しました。

東日本大震災で最大の被災地のひとつとなった宮城県石巻市では、現在 6,000 を越える応急仮設住宅への入居が進み、2 年に及ぶ仮設生活が始まっています。仮設住宅での生活は、避難所と違い、炊き出しや物資の無料配布はなく、生活費が必要となります。また、プライバシーが守られる一方、人間関係やコミュニティが分断され、各家庭が抱える問題が見えなくなると懸念されています。このような状況を受け、現地支援を続ける NGO ピースボートでは、生活必要情報とコミュニティのつながりを目的としたオリジナルの新聞を発行、ボランティアによる新聞配達活動を開始しました。

石巻市では、昨日 11 日、すべての避難所が閉鎖。一部「待機所」と呼ばれる施設が残るものの、市内約 130 地区での仮設住宅生活に移りました。阪神淡路大震災で仮設住宅での孤独死が問題となった反省から、今回の仮設住宅支援では、社会福祉協議会が地元雇用した「見守り」活動と、集会所でカフェを開くなどの「サロン事業」が展開されています。この度、ピースボートで始めた新聞配達は、これら二つをつなぐ役割であるとともに、ボランティアと被災者の「顔の見える関係」をさらに個々の仮設住宅に広げようという取り組みでもあります。

ピースボートは、16 年前の阪神淡路大震災の神戸において、炊き出し場所のお知らせなど、避難生活に必要な情報を日刊でまとめた「デイリーニーズ」を発行・配布する活動を展開しました。その後、地元の団体「すたあと長田」が発行を引き継いだ週刊「ウィークリーニーズ」は、その後約 3 年間続き、貴重な情報発信であり、コミュニティづくりに大きく貢献したと評価されています。今回の「週刊 仮設きずな新聞」も、当時の活動をさらに発展させたもので、市の広報誌からの重要事項や生活情報、地区ごとのイベント・役立ち情報などを集め、ボランティアによる取材・編集を行って作成しています。

現在、石巻市本庁エリアの約 4,000 戸を皮切りに、ボランティアが毎週一戸一戸を個別訪問し、手渡しで配達を進めています。すでに、家庭内暴力や重病者の存在を発見し、社会福祉士への情報提供につながっていたり、とその重要性を実感する報告も上がっています。

過去の経験からも、必要性は被災地全体にあると思っておりますが、残念ながらピースボートという一組織では、活動を広げられる範囲は石巻市に限定されてしまいます。別紙にて、すでに作成を終えた創刊号と第二号の見本をお送りします。長く続く被災地の仮設生活を支え、これ以上の悲しい知らせをひとつでも減らすことができるよう、ぜひ本件に関する取材・報道など、後方支援のほど、よろしく願いいたします。

※別紙は、第 2 号の新聞サンプルデータです。

● このリリースに関するお問い合わせは、

ピースボート事務局 担当: 合田

TEL: 03-3363-7967 携帯: 090-6553-6395 FAX: 03-3362-6073 MAIL: kyuen@peaceboat.gr.jp